

会 議 録 (1)

会 議 の 名 称	令和6年度第1回入間市廃棄物減量等推進審議会
開 催 日 時	令和6年11月11日(月) 午後1時15分 開会 ・ 午後3時00分 閉会
開 催 場 所	入間市役所 C 棟5階 503室
議 長 氏 名	小林 昌幸
出席委員(者)氏名	小林 昌幸、浜野 良一、有賀 健高、岡崎 洋志、小野 吉雄、 垣本 美紗、熊木 真知子、齋藤 勝久、齊藤 定利、成尾 耕治、 吉岡 和広
欠席委員(者)氏名	上田 圭吾、河野 真夢、平岡 武、吉野 珠美
説明者の職氏名	エコ・クリーン政策課 主幹 榎本 寛 環境経済部 副参事(清掃指導・ごみ減量推進担当) 増田 暁伸
会 議 次 第 (公開・非公開の別)	【委嘱式】 1 開 会 2 委嘱状の交付 3 市長あいさつ 4 委員紹介 【審議会】 1 会長、副会長の選出 2 会長、副会長あいさつ 3 事務局紹介 4 議 題 (1)入間市廃棄物減量等推進審議会について 5 議 題 (2)令和5年度のごみ処理状況について 6 その他 7 閉 会
非 公 開 理 由	なし
傍 聴 者 数	1名
配 布 資 料	資料1 入間市廃棄物減量等推進審議会について 資料2 ごみについて考える！～ごみを減らして、持続可能な社会の実現～ 資料3 ごみ排出量の詳細
事務局職員職氏名	【環境経済部】 部長 岸 道博、次長 吉野 博明、 参事兼エコ・クリーン政策課長 石見 彩 参事兼総合クリーンセンター所長 石井 治彦 副参事(清掃指導・ごみ減量推進担当) 増田 暁伸 【エコ・クリーン政策課】 主幹 榎本 寛、主任 関根 千紘、主任 神田 啓佑 【総合クリーンセンター】 主査 山崎 元博
会議録作成方法	要点筆記

会 議 録 (2)

議 事 の 概 要 (経 過) ・ 決 定 事 項

【委嘱式】

○委嘱状交付

令和6年10月1日から令和8年9月30日までが新たな委員の任期となり、新しい委員での最初の審議会であるため、委嘱状の交付を行った。

【審議会】

○会長、副会長の選出

会長に小林昌幸委員、副会長に浜野良一委員が選出され、承認された。

○議題

(1) 入間市廃棄物減量等推進審議会について

(2) 令和5年度のごみ処理状況について

議題(1)については、資料1「入間市廃棄物減量等推進審議会について」に基づき、審議会の概要とこれまでの審議内容、今後の審議の流れを、議題(2)については資料2「については、資料2「ごみについて考える！～ごみを減らして、持続可能な社会の実現～」、資料3「ごみ排出量の詳細」に基づき、市のごみ処理の状況について事務局から説明を行った。

○その他

今後のスケジュールについて、事務局から説明した。

以上

会 議 録 (3)

発 言 者	発 言 内 容
	(委員及び事務局の発言が行われた部分のみ記述する。)
	【委嘱式】
司会(神田)	1 開 会
市長	2 委嘱状の交付(市長から名簿順に交付)
市長	3 市長あいさつ
各委員	4 委員紹介
	【審議会】
	1 会長、副会長の選出
市長	会長 小林 昌幸委員、副会長 浜野 良一委員に決定。(推薦による)
	2 会長、副会長あいさつ
小林会長	会長あいさつ
浜野副会長	副会長あいさつ
各職員	事務局紹介
	3 議 題
事務局(榎本)	(1)入間市廃棄物減量等推進審議会について (資料1「入間市廃棄物減量等推進審議会について」に沿って説明)
小林会長	事務局の説明の中で質問はございますか。 ないようでしたら、次の議題に移ります。 「(2)令和5年度のごみ処理状況について」、事務局より説明をお願いします。
事務局(増田)	(2)令和5年度のごみ処理状況について (資料2「ごみについて考える！～ごみを減らして、持続可能な社会の実現～」、資料3「ごみ排出量の詳細」に沿って説明)
小林会長	事務局の説明の中でご質問はございますか。

発 言 者	発 言 内 容
齋藤(勝)委員	郵便物等、個人情報が入っている紙は雑がみとして出すのを躊躇するという声を聞きます。雑がみはどのような流れで資源化しているのですか。 また、資料2の最終ページに新聞紙で作る「雑がみ回収袋の作り方」がありますが、確か以前は雑がみの回収袋を配布すると聞いていました。配布はなくなったのでしょうか。
事務局(石井)	雑がみの流れについてご説明させていただきます。集積所へ出されたものは、紙問屋へ直接搬入をし、選別をしてリサイクルに回しています。かなりの量がありますので、個人情報が特定されて被害が出るということは、ほぼ考えられないと思われます。しかし、気になるものは無理に雑がみで出さず、シュレッダー処理をして可燃ごみとして出してください。総合クリーンセンターに搬入された分についても紙問屋が直接取りに来ているため、人の目に触れることはほぼありません。 雑がみ回収袋については、当初は配布も検討しておりましたが、1枚当たりのコストが大きいと、ひとまず回収袋の作り方を広報し、その結果さらに追加の措置が必要となった場合に配布の検討を行います。
事務局(岸)	説明の補足ですが、新聞紙で作成する回収袋以外にも、ご自宅にある紙袋や紙の新聞入れ等でも雑がみを出していただくことができます。
小林会長	我が家では、雑がみは紙袋へ入れ、バラバラにならないように縛って出しています。各家庭で、細かい紙等も可燃ごみとして捨てず、余っている紙袋等に入れて処理していただけるとありがたいです。 ほかにご質問はございますか。
齋藤(定)委員	総合クリーンセンターにあるリサイクルプラザを何度か利用させていただきま

発 言 者	発 言 内 容
	したが、並べられているリサイクル商品はどのような基準で選定されているのでしょうか。また、手直し等はされているのでしょうか。すごく中途半端なため、もっと真剣に携われればよりたくさんの商品が並び、市民も利用しやすいと思います。
小林会長	リサイクルプラザでの手順と、博物館で年に何度かバザーを開催しているかと思しますので、その辺も含めて事務局より説明をお願いします。
事務局(石井)	リサイクルプラザに並んでいる商品は、基本的にはゴミとして総合クリーンセンターに搬入されたものです。使えそうなものを現場で選別し、洗浄と手直しをして再生しています。しかし、洗浄や手直し程度のことしかできないため、リサイクルショップ等に並んでいるものと比べると質は低いと考えます。また、布製品についても、総合クリーンセンターに搬入されたものから選別をし、使えそうなデニム等を洗浄して並べています。リサイクルプラザができたのは平成13年度であり、当初はまだリサイクルショップが一般的ではなく、先駆けてとしてリサイクルを行っていましたが、現在はリサイクルショップも普及しているため、今後の運営については検討の余地があると考えています。 また、博物館のフリーマーケットですが、2年ほど前から中止しています。現在はリサイクルの日ということで、毎月第2日曜日にリサイクルプラザ1階の展示場でブースを展示しています。事前申込制であり、毎回10組ほどの申し込みがあります。
小林会長	ほかに質問はございますか。
有賀委員	シンプルに質問なのですが、資料3の「新聞・雑誌・段ボール★」の排出量が急激に減っているのはなぜでしょうか。

発 言 者	発 言 内 容
事務局(石井)	あくまで推測ですが、新聞・雑誌・段ボールの中で特に雑誌・新聞に関しては約10年前から比べると半減しています。やはり書籍の電子化がかなり進んでいることが影響していると考えます。段ボールに関してはそれほど減っていません。
岡崎委員	雑がみについて質問です。お菓子の箱など、コーティングされている箱やハガキは雑がみとして出せるのかいつも迷います。その分別方法をはっきり説明できた方が良いと思います。 また、「「元気な入間」のごみチャンネル」に濡れた紙は資源にできないと書いてありますが、このことを知らない市民がたくさんいると思います。濡れた紙は雑がみとして出せないということをもっと周知した方が良いと思います。
事務局(石井)	雑がみに関して、ビニールコーティングされているものは、破くとビニールが伸びます。そういったものは雑がみになりません。雑がみの回収団体が出している細かい分別があるため、市公式ホームページで周知していきます。 また、雨が降ると集積所の紙が濡れてしまうこともあります。雨だからという理由で集積をやめることは難しいため、市民にある程度ご理解をいただき、雨の日はゴミ出しを控えていただくといったことを広報していきます。
小林会長	ほかに質問はございますか。
吉岡委員	ごみの分け出し表が9か国語に対応しているとのことですが、どこの国でしょうか。
事務局(石井)	英語、中国語、スペイン語、ポルトガル語、韓国語、ベトナム語、ネパール語、タイ語、タガログ語です。入間市に住んでいるほとんどの外国人に対応しております。

発 言 者	発 言 内 容
吉岡委員	外国人は事業所で働いている方が多いと思いますので、事業所に分け出し表を配布するとより外国人への周知が進むのではと思います。
事務局(石井)	これまで事業所に直接働きかけたことはないため、取り組みたいと思います。現在はごみ集積所に市公式ホームページに飛べる QR コードを貼ったり、ポスティングを行っています。
小林会長	ほかに質問はございますか。
齋藤(勝)委員	生ごみ処理機の補助金は年間でどれくらいの申請があるのでしょうか。 また、家電量販店であまり見かけないですが、生ごみ処理機はどこで売っており、補助金の上限額である2万円で対応できる価格なのでしょうか。 生ごみ処理機を推奨するということは、自分のごみは自分で処理してほしいということなのか、生ごみ処理機を推奨することで、ごみの量を減らしたいということなのか、どちらでしょうか。
事務局(石井)	令和5年度の決算で申し上げますと、生ごみ処理機、いわゆるコンポストは16基、電気式生ごみ処理機は21基補助をしております。 最近の傾向としては、たい肥化するものでなく乾燥させるものが普及しております。乾燥させた生ごみをたい肥にしたり土に混ぜて処理したりできるものです。たい肥化する生ごみ処理機は10万円以上するものが多いですが、乾燥させるものは1万数千円で購入でき、補助金の上限額である2万円以内で対応できるものが多いです。 生ごみ処理機については、本当に効果があるのかというお話をいただくこともあり、現在、これまで補助金を交付した方へ追跡のアンケート調査を実施しているところです。その結果で今後の展開について考えてまいります。

発 言 者	発 言 内 容
齋藤(勝)委員	市であまりPRされていないように思います。
事務局(石井)	PR に関しては、市公式ホームページへ掲載しているのが現状です。他市町村では、ホームセンターと連携して補助金の PR を行っているところもありますので、今後も補助事業を継続する場合はそういった PR 方法も実施していきたいと思います。
小林会長	常に売れるものではないため家電量販店やホームセンターで見かけないのかと思いますが、お店に問い合わせいただければカタログは置いてあるかと思います。 ほかに質問はございますか。
熊木委員	金具付きのバッグやベルトを可燃ごみで捨てられるようになりましたが、焼却処理した後の鉄くずなどはどのように抽出しているのでしょうか。また、処理した鉄くず等は売却され市の財源となっているとのことですが、ごみの関係の財源となっているのでしょうか。
事務局(石井)	大きい不燃物は難しいですが、バッグ等に付いている金具は取ることが難しいためそのまま可燃ごみとして出してもらっております。入間市の焼却炉は、砂を使用してごみを燃やし、最終的に鉄や不燃物などの残渣物を砂と一緒に抜いて出す仕組みになっており、そこで出た鉄分を売却しております。熱が入っている鉄のため、価格は多少下がりますが、売却費用は特定財源として、総合クリーンセンターの運営費として利用しております。
小林会長	ほかに質問はございますか。

発 言 者	発 言 内 容
吉岡委員	焼却炉の熱量は足りているのでしょうか。
事務局(石井)	今のところ熱量は足りております。焼却炉は午前 8 時から午後 12 時までの 16 時間運転をしております。日曜日が休みのため、月曜日の朝のみ灯油のバーナーで熱して温度が高くなってからごみを投入していますが、それ以外の曜日は前日の熱が残っているため、十分熱量が足りている状態です。しかし、今後分別がより進んでいくと難しい状況となる可能性もありますので、焼却炉の更新の時期に、焼却という処理を進めていくかどうか等も含めて考えていく必要があると思っております。
岡崎委員	市の取組みで、使用済みの紙おむつの資源化を検討するとあります。現在、各地で災害が発生しておりますが、災害時に使用される 1 番多いトイレは携帯トイレです。携帯トイレには紙おむつと同じような吸収するタイプのものがあります。災害時の衛生ごみは膨大な量になることが全国的にわかっており、可燃ごみにするかどうか話題になっているところですが、紙おむつタイプのものを再資源化できるのであれば、災害時のごみ処理がかなり良い方向に向かうと思います。再資源化の可能性としてはどれくらいなのでしょう。
事務局(石見)	まさにここは検討中でして、今はまだ災害時のことについては念頭にございません。再資源化するにはそれなりに紙おむつの量を集めなければ、再資源化するコストに負けてしまうため、入間市だけでなく近隣市とも連携すべきか等も含めて検討しているところです。そこで一定数の紙おむつが集まれば、民間事業者と連携し、何らかのリサイクルのシステム化ができないかと思っております。環境省もこのあたりについての補助金や支援制度を出しておりますので、調査研究しながら、検討していきます。リサイクルのシステム化ができたのちに、災害時の活用について考えていけると思っております。

発 言 者	発 言 内 容
小林会長	ほかに質問はございますか。
齊藤(定)委員	総合クリーンセンターが建ってから 28 年ということで、今後の展開として、移転や建て替え等は考えているのでしょうか。焼却炉の維持費は単位が大きく、建て替えとなっても多くの費用が必要かと思います。その辺はどのように考えているのでしょうか。
事務局(石井)	寿命は、中間的に大規模改修等を行いつつ約 40 年と考えており、令和 17 年くらいが目途になります。しかし、最近の技術として長寿命化を推しているメーカーもあり、建物はそのまま中身のみ入れ替えるという方法もあると聞いております。今後、建て替えが良いのか、長寿命化が良いのか、最終的にあと何年活用できてどれくらいのコストがかかるのか、ライフサイクルコストを比較して判断していきます。埼玉県は、他市町村との広域化を推しておりますので、そういったところも含めて検討していきます。
齊藤(定)委員	広域化する方向性で進んでいくのでしょうか。
事務局(石見)	近隣市の事情もありますので、入間市にとって良い方法を考えていきたいと思っております。
事務局(岸)	ごみ減量は市民の協力がないと進んでいかないものです。ごみが減量すればするほど、焼却炉もコストも小さくできます。そのため、更新の時期に合わせてごみの量を減らせるよう市としても一生懸命取り組んでおりますので、ぜひ皆さまのご協力もお願いいたします。
小林会長	ほかに質問はございますか。 ないようですので、議題は以上となります。議長の座をおろさせていただきます。

発 言 者	発 言 内 容
	す。 4 その他 (事務局より今後のスケジュールについて説明) 2月下旬～3月中旬に開催予定 5 閉会 (閉会のあいさつ)
議事のでん末・概要を記載し、その相違なきことを証するためここに署名する。 令和 6 年 12 月 16 日 議 長 の 署 名 <u>小林 昌幸</u> 議長が指名した者の署名 <u>浜野 良一</u>	

